

全柔連発第 26-0271 号
平成 26 年 7 月 29 日

本連盟構成団体 理事長（専務理事） 殿

公益財団法人全日本柔道連盟
大会事業委員長 松井 勲
〔公印省略〕

国際柔道連盟試合審判規定改正に伴う国内大会の運営方法について（通達）

拝啓 盛夏の候、時下ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本連盟の諸事業に対し格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、国際柔道連盟試合審判規定（IJF 規定）の改正に伴い、本連盟主催大会における運営方法を以下の申し合わせに基づいて実施していくことといたしましたのでご確認ください。

なお、本件は規定ではありませんので、各大会におかれましては主催者の判断により柔軟にご対応いただきたく、あわせてご理解のほど、よろしく願いいたします。

敬具

記

1. 試合結果の記号

- 従来「有効」＝「指導 2」など、技のポイントと指導によるポイントが同じであったが、IJF 規定改正により、別表記が必要となった。また、国内独自ルールとして「僅差」を設けたことも含め、別添のとおり団体戦、個人戦を使い分けた記号を使用することとした。
- 試合結果の記号は公式記録には使用せず、大会会場の掲示のみで使用する。

2. 試合直前の選手呼び出し方法

- 改正された IJF 規定では、「一人の選手が試合時間通りに準備ができており、その対戦相手がいないことを審判委員会が見つけた場合、大会放送係に選手の最終呼び出しを行うよう要請する。（1 分おきに 3 回の呼び出しはしない）その後、審判員は、準備ができていない選手を試合場の端に立たせ、スコアボードで 30 秒のカウントダウンを始めさせる。30 秒経っても対戦相手が現れない場合、審判員は準備のできている選手のみを試合場に入れ、不戦勝ちによる勝者を宣告する。」としている。
- IJF は選手への試合順序や進行状況などリアルタイムでの案内設備（アップ場などでの試合映像放映、進行状況のモニタ表示）や選手呼び出しのための全館アナウンスなど、IJF 大会のような設備が整った大会を想定して規定したものであるため、本委員会としては、設備の整わない大会においてはこれを適用せず、従来通り 1 分間隔で 3 回の呼び出しを行う方法で運営する。

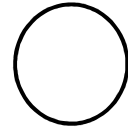
以上

試合結果の記号

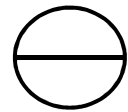
平成 26 年 5 月 29 日

大会事業委員会

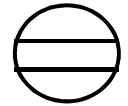
一本・反則負け



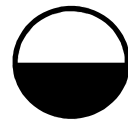
技あり



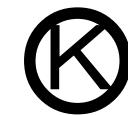
有効



判定



僅差



※Ⓚは団体戦のみ使用

指導 1



指導 2



指導 3



※①②③は個人戦のみ使用